

5日目 アテネ市内観光

5日日

8月3日(月)

3泊3日のクルーズもついに終了。早朝5:00くらいから船内最後の食事をする。船はすでに入港している。

6:00アテネ郊外のピレウス港で下船

3泊4日お世話になりました。

6:20バスに乗りピレウス港発

市内のあちこちに早朝にもかかわらず人々の長い列が見られた。例のデフォルト騒ぎで銀行に並ぶ人々である。1人1日€60(約¥8,000)に制限されている引き

出しではあるが、それでもおろしそこなう可能性があるのか必死で並ぶそうである。

一部では「世界一働かない国民」というありがたくない称号で呼ばれているギリシャ人であるが、各自の生活への熱心さや深夜まで営業しているタベルナ(レストラン)・商店など、こと観光業への力の入れようを目の当たりにすると、意外に勤勉なのではないかと思えてくる。

7:00アテネ市内へ

初日にも書いたが、アテネ市内のどこからでもアクロポリスの丘を見ることができる。↓



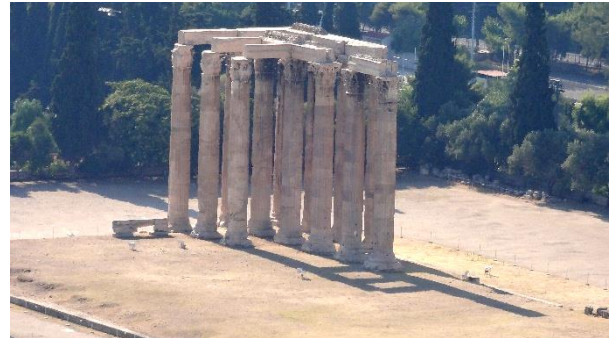
アテネ(市域)の人口は約400万人。ギリシャ全体で1,100万人強であるから、全人口の1/3以上が首都に住んでいる計算になる。バスは市街地に南から入り、最初に2004年のオリンピック・スタジアムに到着した。



昔は日本でも走っていた。ますます「昭和」である。



オリンピア・ゼウス神殿跡 →
←①ハドリアヌスの門の後方にある、ギリシャ最大級の神殿跡。104本あったといわれる*コリント様式の柱は、現在15本のみ残っている。



アクロポリスから撮影

8:00 アクロポリスへ入る

ガイドさんからレシートのようなチケットを受け取り、QRコードを駐輪場にあるような機械に当てて入場。ちょうど、衛兵の交代時間であった。ギリシャには徴兵制度があり、成人男子は2年間兵役につかねばならないそうである。



都中名	時刻	交通機関	スケジュール
ピレウス港	06:00	船	《ピレウス港へ入港》 下船後、《アテネへ》(約10km)
アテネ	07:30		着後、《アテネ市内観光》へご案内します。 <3時間30分> (【世界遺産】◎アクロポリスの丘、 ○バルテノン神殿、 ○パナティナイコスタジアム、 ○ゼウス神殿)
	11:30		ホテル到着予定です。 ※お部屋のご利用は14時以降となります。 その後、《自由行動》となります。 【OP】もうひとつのアテネ観光(昼食付)

市内で見かけたトロリーバス



アクロポリスについて

(旅行社のパンフレットより)

古代に神殿が建てられた聖域であり、都市同家(ポリス)防衛の要塞としての役割を果たしてきたところ。アテナ女神(アテネの守護神)を祀ったパルテノン神殿はドーリス様式の最高峰といわれ、紀元前438年頃に建てられた。

● **ドーリス様式**
柱身は太く、下から見上げたときも真つすぐに見えるように真ん中を膨らませている。溝は20本。

● **イオニア様式**
細身で多くの溝が刻まれているため、明暗の効果をあげている。

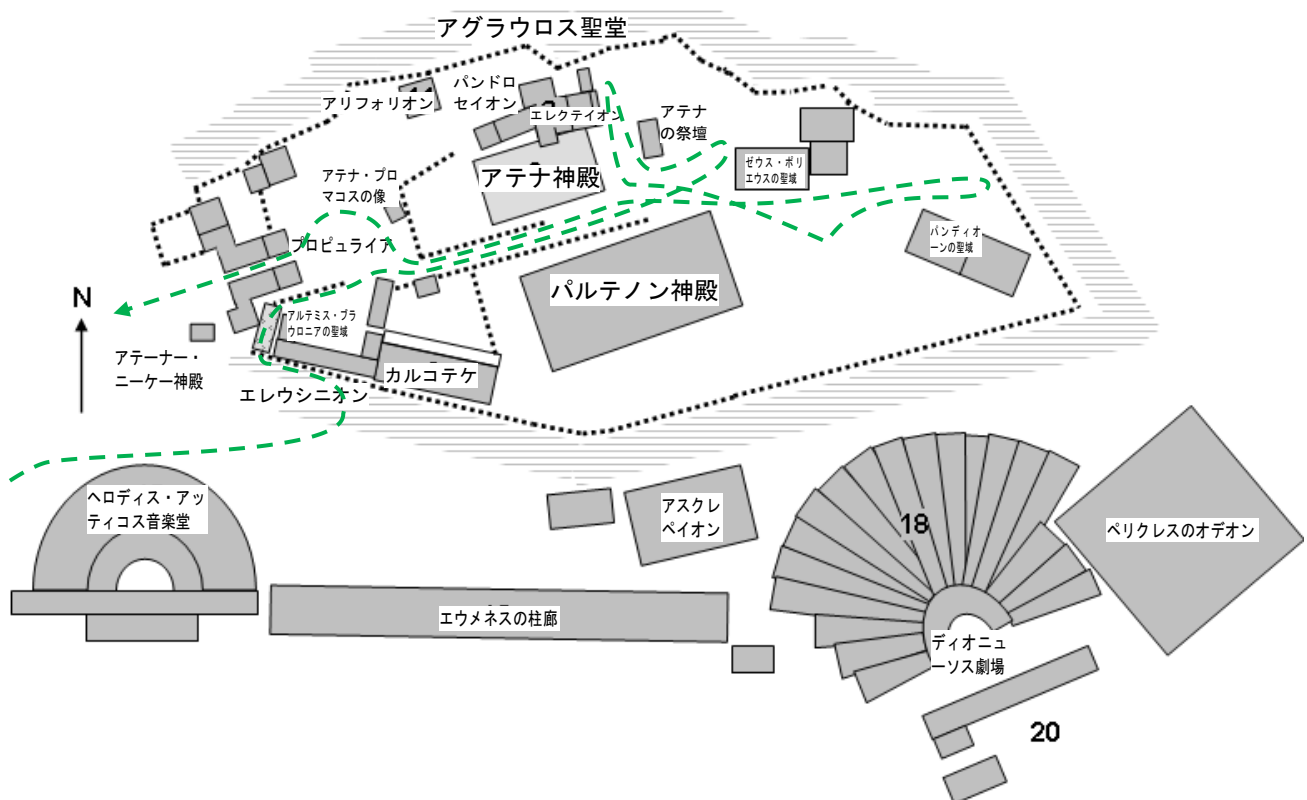
● **コリント様式**
イオニア様式を土台とし、柱頭にアカンサスの葉模様の飾りがある。

パルテノン神殿

アクロポリスの丘に建つドーリス式神殿。前 479年にペルシア人が破壊した旧神殿の跡に、前447～438年にフェイディアスを総監督に、当時の技術の粋を集めて造られた。ギリシャ女神アテナに捧げられたもので古典期芸術の頂点を示す作品。ペンテリコン産の大理石を使い、面積30.88m×69.5mの床に高さ10.4m、底面の直径1.9mの**ドーリス式円柱**が、東西各8本、南北各 17本並んでいる。内部は東西それぞれ6柱式の玄関廊があり、東側からプロナオス(ヘカトンペドとパルテノン(処女神アテナの間。のちに神殿全体の名称となる)とに分れる)、オピストモス(後室)が配置され、ヘカトンペドにはフェイディアス作の黄金象牙像アテナが安置されていた。

東側のメトープには神々と巨人の争い、南側はラピタイとケンタウロスの戦い、西側はアマゾンの戦い、北側にはトロイ戦争が浮彫で表わされ、東破風には女神アテナの誕生、西破風にはアテナとポセイドンのアッチカの土地争いの群像彫刻がある。またナオスの外壁上部にはパナテナイア祭を描いた約160mに及ぶフリーズが1周していた。ビザンチン時代にはギリシャ正教教会に、トルコの占領時代には**モスクに改造**され、さらに**火薬庫に用いられ**て1687年ベネチア軍によって爆破され、屋根、内陣の壁、円柱が破壊された。彫刻群の大部分は現在**大英博物館のエルギン・ルーム**にある。

アクロポリスの見取り図



<https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/c/c9/AcropolisatathensSitePlan.png>より改変

入口を入ってすぐにある

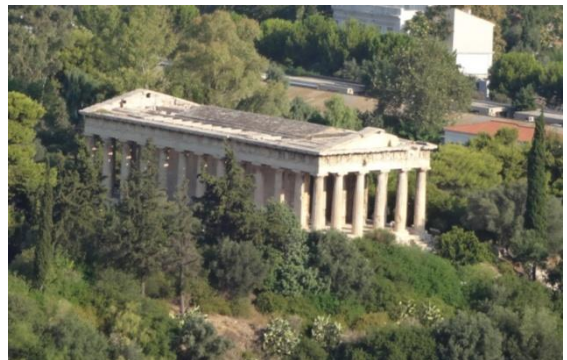
[ヘロデス・アッティコス音楽堂] →
驚いたことに今でも現役で、夏にはコンサートなども開かれているようだ。



← この神殿(エレウシニオン)の下を通過して丘の頂上部へ(東口)



神殿の天井部分
茶色い部分がオリジナル(酸性雨のため)、
白いは復元部分。



アグラ(だと思う)

アテネ市内で最も良く保存されている建造物



修復中のパルテノン神殿、様々な国から観光客が見に来ていた。



↑ 東破風から見た光景
こちら側の破損が痛々しい
いわゆる「エンタシス」 →
典型的なドーリス式(ドーリア
式って習わなかった?)である。
自分としては三様式中、シン
ブルで力強く最も好きである。



アクロポリスどころかギリシャの象徴ともいえるパルテノン神殿だが、1687年までは原型を保っていた。オスマントルコとベネチア軍の戦争で破壊されたのだが、実はイギリス人外交官が彫刻の大部分を持ち去ったことや今世紀初めの誤った復元作業が、荒廃の主因であることを知った。



アクロポリス出口：丘を下ってバスに乗り市内巡り。



最初に国会議事堂前^②シンタグマ(憲法)広場へ、

この国会議事堂は王政時代には王宮だった。旧国会議事堂はアテネ大学になっているようだ。1821年にオスマントルコ帝国からの独立後、1974年まで、君主制(王政)をひいていた。王は代々ドイツ(オーストリア)人であった。第二次世界大戦中は、枢軸国側(ドイツ・イタリア・ブルガリア)による占領下にあった。このため、ギリシャ人はドイツ人があまり好きではないそうである。戦後も内戦やキプロスのキリスト教徒と国内のイスラム教徒の交換、軍事政権による支配などが続いたが、1981年のEC(現EU)加盟後は、やや経済は持ち直してきた。

しかし、隣国トルコの急成長やリーマンショックのために出稼ぎが困難になり、経済的に伸び悩んでいた。昨今では、ISによるシリア難民の通り道になっていることも政情不安の原因になっている。

右の写真は衛兵の交代。議事堂の下は「無名戦士の墓」となっている。衛兵の服装は、19c.の独立当時の服装を引き継いでいる。靴は木靴である。

アテネでも年に何回か43℃まで気温が上がり、衛兵もときどき熱中症で倒れるそうである。

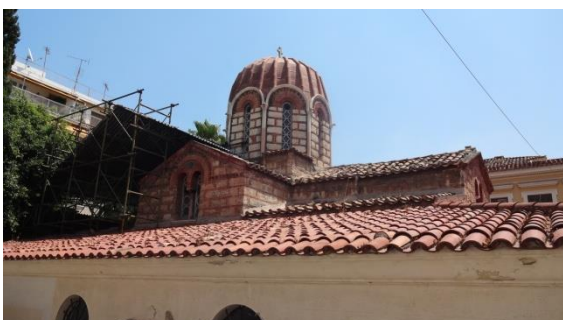


プラカ地区の向かいにある^①ハドリアヌス帝の門

2,000年近く前の門だが、ほぼ原形を保っている。余談だが、アテネ市内のミニバイクはほとんどがノーヘルで走っていた。

タクシーもよく見かけたが、ベンツやオペルに交じってチェコ製の「スコダ」も走っており、ここは東欧なんだと感じさせられた。

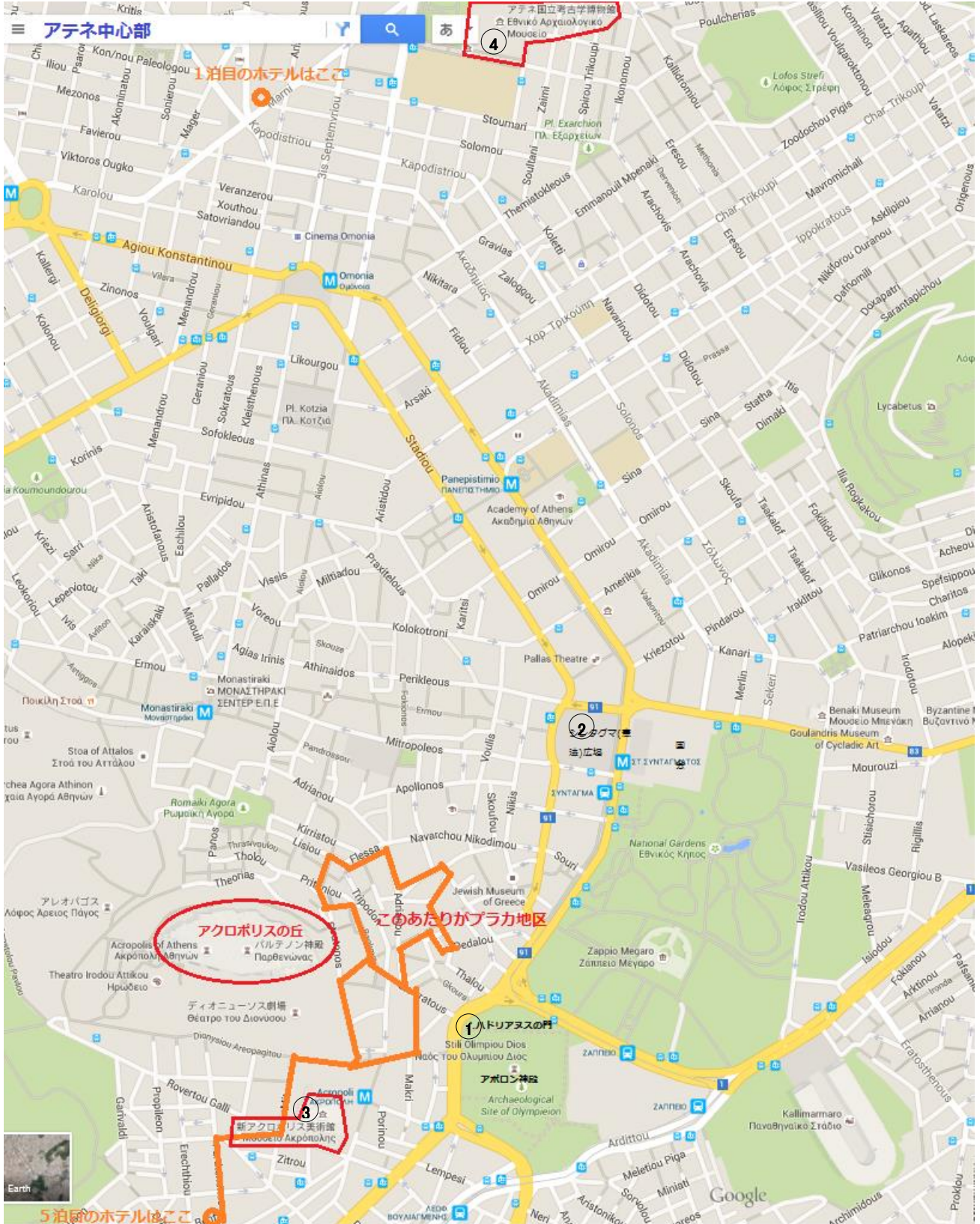
⇒ プラカ地区にあった銅像：良く分からないがオスマントルコ帝国(イスラム教)からの独立戦争の中心人物らしい。もっとも、独立後もオーストリア帝国(キリスト教国)の支配下だったようなものではある。



←プラカ地区の教会：約1,800年前の建築だが、現役である。トルコの支配下でもキリスト教を信仰することは禁止されていなかった。

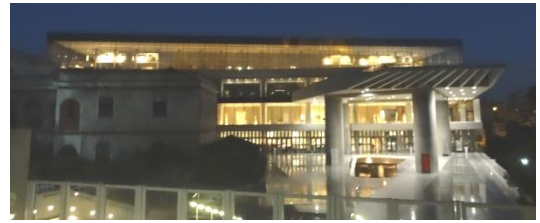
13:00 プラカ地区のタベルナ(レストランというよりカフェ)で昼食

ギリシャの代表的な料理の「ムサカ」を食べる。ポテト(&ナス)にミートソースとホワイトソースをかけてオーブンで焼いたものである。旅行前に家でも1回作ってみた。味は同じようなものだが、日本人には量が多い。ただし、以前イタリアに行ったときも感じたが、野菜類が新鮮でおいしい。なお、同行者はかなり徹底したビール党だが、ギリシャのワインが殊の外気に入ったようである。気温は36~37℃あるが、湿度が低いので扇風機だけでもいられる。



5日目(午後) アテネの2つの博物館

③アクロポリス博物館(⇒夜景)：アクロポリスの頂上にあつた博物館から、展示品を移し新装オープンした。展示品はアテネの最盛期、パルテノン神殿が建てられた頃のものが多い。(旅行社のパフレットより)



エントランスの床はガラス貼り、下に遺跡が見える。



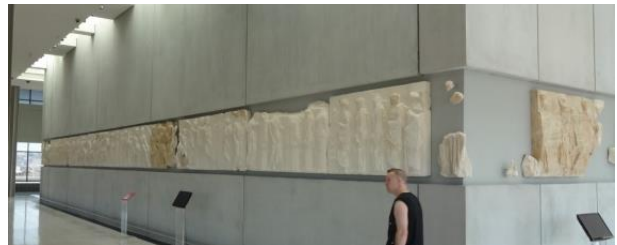
女神の柱(オリジナル) 顔がはっきりしないのは酸性雨のため



[南側] パルテノン神殿のメトープ(欄間)の復元：茶色いのはオリジナル 白い部分は大英博物館にあり返還交渉中 [北側]



西側の祭壇下彫刻(オリジナル)

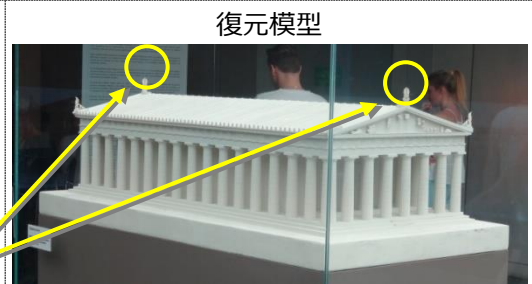
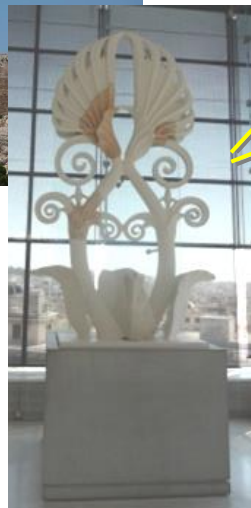


[東側]



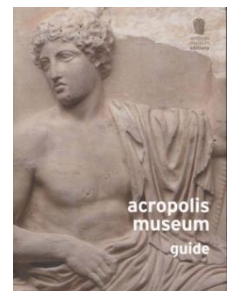
博物館から見えるパルテノン神殿
上段のメトープは、これと同じ大きさと配置

破風上部の飾り：日本での鬼瓦や鯨の様なもの。結構細かい彫刻である。



復元模型

収藏品ガイドブック
325ページオールカラー
で€15(約¥2,000)安い!
残念ながら、英仏伊
独希語版のみで日本語
やアジア系言語版はない



どうしてもパルテノン神殿関係の写真が多くなってしまいが、下の階には庶民の生活が窺われるようなものも多く展示されていた。ただし、昔の住民の遺品も混じっていることから撮影禁止になっている。エスカレーターや空調など設備も非常に整っていた。旅行会社のガイド付きオプションだったので解説もあった。それによると、

- ①ギリシャの地は、ローマ帝国の占領下でキリスト教化された。
- ②古代ペルシャ、イスラム勢力により度々戦火にさらされてきた。19c.以降は、イギリス・ドイツ・イタリアなどに占領されたこともある。
- ③よく古代の彫刻で鼻が欠けていることがある。これは破損したのではなく、古代のキリスト教もイスラム教も偶像崇拝を禁止したため、鼻を削った。
- ④パルテノン神殿は爆発による破壊の後、1806年にイギリス外交官エルギン伯(en)が神殿から焼け残った彫刻類を取り外して持ち去り大英博物館に売却した。そのため、現在彫刻の大部分はイギリスにある。



←④アテネ国立考古学博物館：ギリシャ共和国の首都アテネにある 1829 年開館の国立博物館で、ギリシャ中の様々な古代遺跡から集められた重要な遺物の数々を収蔵している。特に「壺」のコレクションが有名である。



アガメムノン王(伝承)のマスク と 王冠…金製品

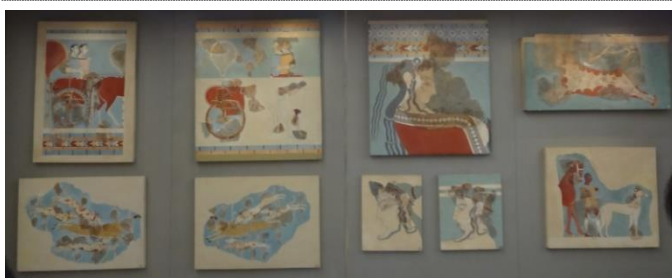
現在でも作れない水晶製の水差し



←ミケーネ出土のアクセサリ類
左側は金・右側は宝玉製
ガイドさんによる日本語解説あり



アルテミスのブロンズ像→



↑壁画というよりタイル絵
クレタ島出土の女性と男性像 口元がアルカイックスマイル→





ギリシャ神話にかかわる彫像

←牧神パンと女神アテネ
サンダルでパンをひっぱたくところ

海神ポセイドン→



墓の上にあった子どもの彫像



おそらくこの子の生前の姿をとどめたもの



考古学博物館の売り
である「壺」コーナーより

青銅製

ミノア文明の壺



どう見ても[土偶]



特別展示

サントリーニ島のコーナー
より「壁画(こちらがオリジ
ナル)」
そういえば昨日行ったばっ
かりだな…。



博物館めぐりを終わってギリシャ最後の宿泊となるホテル・
ディバニーパレス・アクロポリスへ、アテネでも上級グレードの
ホテルだそうである。アクロポリスや最も繁華なプラカ地区も
徒歩圏である。夕食は散策も兼ねて、再びプラカ地区へ繰
り出す。(地図中のオレンジが歩いたところ…推定)



電動の観光車
両が走って
いた。

昼景(参考)



アクロポリスの夜景

6日目 日本まで15時間

6:00 朝食

腹の調子は戻らないものの食べておかないと身が保たない。地下のダイニングでヨーグルトをメインで食べておく。

7:00 ホテル発

空港まで35km。これは、成田空港に次いで世界で2番目に都心から遠い国際空港である。

空港までの間ガソリンスタンドがいくつかあったが€1.5/1ℓぐらい(約¥210)と大変高い。道理でミニバイクが多いわけである。

ギリシャでは至る所に右のような廃屋があった。ここごとく木製品が外されている。実は、ギリシャでは木材が非常に高価なので取り外して新居に運んだり、売却したりするそうである。



←再び「飛んでイスタンブール」な搭乗券



帰路の飛行機は、全線A330-300であった。イスタンブールのアタチュルク空港は大混雑していたようで20分ほど上空待機したうえ、着陸したあと駐機場につくまで35分もかかってしまった。おかげで、空港での買い物の時間がほとんど無かった。

成田までの機内で、映画2本「風に立つライオン」と「チャッピー」を見た。



7:25(日本時間) 成田到着

空港到着後、通関手続きをしてスカイライナーに乗り、日暮里経由で自宅へ。ところで、行き(下り)は36分で走ったのに帰り(上り)は53分もかかっている。同じ料金を払っているのにこれは如何なものか。



まとめ

- 1.クルーズ(船旅)は、とにかく楽。陸上のホテルにいるのと同じように食事もゆったりした場所できれるし、いつでも自室で横になれる。
- 2.期せずして、アジアとヨーロッパの接点を旅することになった。オスマントルコ→西欧諸国による搾取、キリスト教とイスラム教の勢力争いの跡が至る所に残されていると感じた。
- 3.ギリシャの消費税は23%と高いが、食品は8%。物価は全体的に安い。

6日目 8月4日(火)

都市名	時刻	交通機関	スケジュール
アテネ	07:00	バス	ホテル出発予定 《アテネ空港へ》(約35km)
アテネ発	10:20	TK-1846	《空路、イスタンブールへ》 (所要時間:1時間25分)
イスタンブール着	11:45		着後、航空機を乗り継ぎ
イスタンブール発	13:50	TK-0050	《空路、帰国の途へ》 (所要時間:11時間30分)

7日日 8月5日(水)

都市名	時刻	交通機関	スケジュール
成田国際空港着	07:20		通関後、空港で解散です。 お疲れ様でした。